

木靴の樹

エルマンノ・オルミ監督作品

1978年/イタリア/187分/カラー/ブルーレイ上映



©1978 RAI-ITALNOLEGGIO CINEMATOGRAFICO – ISTITUTO LUCE Roma Italy

2022年5月4日(水・祝)

[上映時間] 13:00

[会場] 横浜市南公会堂

『 L' Albero degli zoccoli 』

【物語】

19世紀末の北イタリア、ベルガモ。厳しい大地主のもとで、肩を寄せ合うように暮す四軒の農家。貧しい彼らは農具や生活の品の多くを地主から借りていた。ある日、バチスティ家のミネク少年の木靴が割れてしまう。父は村から遠く離れた学校に通う息子のために、川辺のポプラの樹を伐り、新しい木靴を作った。しかし、その樹木もまた地主のものだった…。

【登場人物】

(4 家族)

■バチスティ家

- ・バチスティ(寡黙な働き者、夜の集いでは話の名手)
- ・バチスティーナ(妻)
- ・ミネク(長男 学校に通わせてもらう)
- ・トゥーニ(次男 いつも青いキャップをかぶっている)
- ・ジュピゼ(三男・赤ん坊)

■アンセルモー家

- ・ルンクの未亡人(洗濯業で生計を支える)
- ・アンセルモ
(お祖父さん 知恵がありトマト作りがうまく、子どもに人気がある)
- ・ペピーノ(長男 しっかりもので製粉場で働く)
- ・テレジーナ(長女 町から洗濯ものを集める)
- ・ピエリーノ(次男)
- ・アネッタ(次女 町から洗濯ものを集める)
- ・ベッティーナ(三女 お祖父さんと仲良し)
- ・赤ん坊

(他の人物)

- ・ステファノ(青年 マダレーナを見初める)
- ・ドン・カルロ神父(4家族のため農園に足を運ぶ)
- ・地主(金持ちだが、孤独そうに見える)
- ・フリキ(行商人 口がうまい) ・マリア(尼僧) ・祈禱師

【監督・脚本・撮影・編集】

エルマンノ・オルミ

【音楽】ヨハン・セバスチャン・バッハ

【オルガン演奏】フェルナンド・ジェルマーニ

【美術】エンリコ・トヴァリエリ

【衣装】フランチェスカ・ズツケリ

【製作】アッティリオ・トリチェッリ

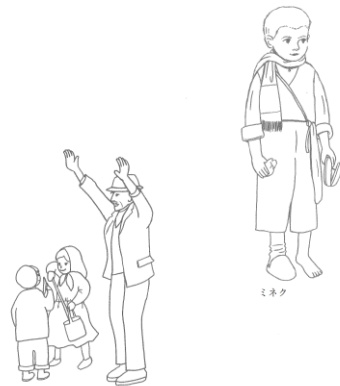
【出演】ルイジ・オルナーギ、
フランチェスカ・モリッジ、
オマーレ・ブリニヨツリ他

■フィナール家

- ・フィナール
(怒りっぽくて、我が子としょっちゅうケンカする。
ズルいところがあるが、ちょっと間抜け)
- ・フィナルダ(妻)
- ・おじいさん(フィナルダの父)
- ・ウスティ(長男)
- ・次男 (おねしょが多い)
- ・オルガ(長女)

■ブレナー家

- ・ブレナ(お酒によわい)
- ・ブレナの妻
- ・マダレーナ(紡績工場で働く)



アンセルモお祖父さんと三女ベッティーナ

＜アンケート集計結果＞

2022年3月12日 第67回上映会「喜劇 女もつらいわ」

(来場者数:197人 アンケート回収数:71枚 回収率:36%)

- 作品について**
- ・とても良かった 27人 (38.0%)
 - ・良かった 33人 (46.5%)
 - ・あまり良くなかった 6人 (8.5%)
 - ・良くなかった 2人 (2.8%)

とても良かった

- 「男はつらいよ」はTVで観た事があります。[女もつらいわ]もコミカルで面白かったです。
- 若い頃を思い出しました。

良かった

- てんぷくトリオ、唄子啓介、敏江玲児おもしろかったです。
- 森川さんの魅力をはじめて知りました。
- なかなか見ることができない作品をありがとうございました。

あまり良くなかった

- 宍戸錠は喜劇役には不向きだった。
- 「男はつらいよ」が余りにも素晴らしく、その女性版をイメージしていたのでもの足りなかった。
- 喜劇ということはわかりますが、「男はつらいよ」と同じとも思えず。森川信さんのやさしさは伝わってきました。

○高崎俊夫さんの講演について

- ・とても良かった 15人 (12.1%)
- ・あまり良くなかった 10人 (14.1%)

とても良かった

- 「男はつらいよ」に関する思いが伝わってきました。
- 大変わかりやすく、喋り方が山田洋次氏に似ているように思った。
- 昔なつかしいはなしが多数あり非常に良かった。

良かった

- いい話でした。
- 少し時間がなかったように思います。森川信さんの話から離れたものあり、マニアックな話でした。
- 早速紹介された沢田隆治「私設コメディアン史」を購入します。
- 坂口安吾氏の話をしてくれたが、よく聞き取れなかった。

あまり良くなかった

- 横浜と森川信について、また、現代の喜劇とこの作品の面白さの比較を分かりやすく語ってほしい。

良くなかった

- 私は昭和24年生まれ映画ファンですが、「女もつらいわ」は今まで観た映画の中で最悪、最低。笑うところはひとつもなく感動もしない。役者もみるべきものはなく、物語もひどい。こんな映画でもあの当時は上映できたのかと驚くばかりである。新国劇映画株式会社とあったが、新国劇と関係あるのかわからないが、こんな映画を上映していたから新国劇はなくなってしまったのか。その辺はわからないが、とにかくひどい映画だった。でも、それは今観るからで当時は笑っていたのだろうか？時代の差によるものであろうか。でも当時の「男はつらいよ」は今観ても面白いので決して時代のせいでもない。とするとやっぱり監督、脚本、役者なんであろう。とにかくひどい映画として記憶に残る作品になりました。森川信にとって気の毒な作品になってしまった作品でした。
- 「男はつらいよ」の女性版と思い来場したが、52年前といえ寅さんの様にほのぼのとしれないし漫才師並べでの作、残念すぎでした。

- ・良かった 32人 (45.1%)
- ・良くなかった 2人 (2.8%)

- 森川信について私たちはよく知らない。もっと私たちの知らない森川信について教えてほしい。「男はつらいよ」のおいちゃんではない森川信について、と「男はつらいよ」のつながりについて。

- 森川信出演映画等の説明(紹介)がメインで、話の内容が判りづらかった。

- 話がわかりにくかった。もう少し順序だてて話してほしい。

良くなかった

- せっかく話すのであれば、主演者の芸歴とか、生い立ちとか出演作品活躍した評伝など資料化して配ってほしい。

☆アンケートご協力ありがとうございました

<< 次回 第69回上映会のお知らせ >>

石原裕次郎さんを偲んで

『赤いハンカチ』

2022年7月23日(土)

上映時間 13:50

一回のみ上映

[講演] 15:30~16:00

佐藤利明さん(娯楽映画研究家)

[入場料]

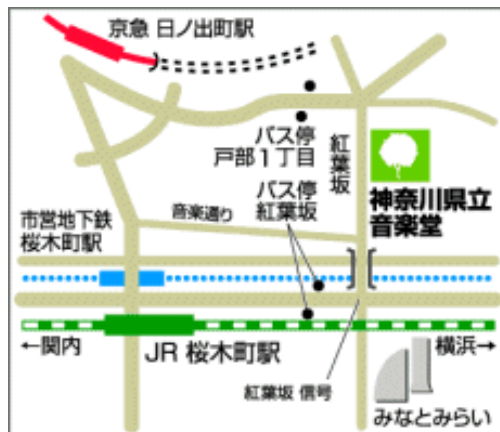
前売 1,000円 当日 1,300円

障がい者 1,000円 (介助者1名無料)

[会場] 神奈川県立音楽堂 045-263-2567

JR「桜木町」駅(南改札西口・北改札西口)から徒歩10分

横浜市営地下鉄「桜木町」駅(南1番出口)から徒歩10分



神奈川県立音楽堂地図

… 1963年/日本映画/カラー/98分/ブルーレイ上映 …

出演：石原裕次郎 浅丘ルリ子 二谷英明 川地民夫 笹森礼子
森川 信 金子信雄 芦田伸介 南寿美子

監督：舛田利雄

脚本：小川 英/山崎 巖/舛田利雄

原案：山本純孝

横浜に映画ファンの思いが反映される映画館を作ろう！

横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年5月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。会の存在をより多くの皆様に知っていただき、映画館をつくる目標に一步でも近づきたい、それと同時に良質な映画を上映することで、映画ファンの交流の場を提供したい、という思いで年4回の上映会を行っています。

横浜キネマ倶楽部会報

横浜キネマ倶楽部 発行



…横浜キネマ倶楽部連絡先…

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2
かながわ県民活動サポートセンター No.269
TEL:080-2554-8023 (10時~18時)
Eメール yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp
HPアドレス: <https://ykc.jimdofree.com/>